

目次

[概要](#)

[生成するはファイルを解決します](#)

[追加データを解決して下さい](#)

概要

トラブルシューティング ファイルはログメッセージ、コンフィギュレーションデータおよびコマンド 出力の収集が含まれています。 Sourcefire システムのステータスを判別することを使用します。 Cisco サポート エンジニアが BlueCoat X シリーズ プラットフォーム (別名大梁センサー) からのトラブルシューティング ファイルを送信 するように要求したらこの資料に関する手順に従って下さい。 この資料はまた問題を分析して必要であるかもしれない追加データのリストを提供したものです。

生成するはファイルを解決します

1. として BlueCoat X シリーズ アプライアンスにログイン して下さい。
2. Sourcefire ソフトウェアのための VAP グループを見つけて下さい。

```
show application vap-group
```

次の出力は上のコマンドの例です。 この例では、vap グループは sf53 です。

```
show application vap-group
```

3. 次に VAP グループにリモートシエル自体できるように、特権を増加する必要があります:

```
unix su
```

4. それから、リモートシエル セッションを開いて下さい:

```
rsh <VAP_group>_1
```

次に例を示します。

```
rsh sf53_1
```

5. この場合、Sourcefire 特定のアプリケーションをロードして下さい:

```
source /opt/sf/profile
```

6. 最終的には、トラブルシューティングを生成して下さい:

```
sf_troubleshoot.pl -t <case_number>
```

追加データを解決して下さい

1. /var/log/messages すべてのコピー* Control Processor モジュール (CPM) のファイルはログ 分析およびトラブルシューティングする 目的で必要です。 Sourcefire センサーは Sourcefire ソフトウェアが動作するところアプリケーション プロセッサ プロセッサ モジュール (APM) の

よりもむしろ CPM の /var/log/messages ファイルの syslog メッセージすべてを、記録します。

注 以下の事項に注意して下さい: * /var/log/messages と*。CPM の ファイルすべてを含むのに*使用して下さい。

2. BlueCoat X シリーズ プラットフォームの実行コンフィギュレーションは私達がセンサーがどのように XOS でインストールされ、設定されるか理解することを可能にします。次のコマンドはテキストファイルに実行コンフィギュレーションをコピーします:

```
copy running-config /tmp/running_config.txt
```

3. 次のコマンド 出力はモジュールおよびシャーシのステータスを判別して重要です:

```
show module statusshow chassis
```

4. エラーか現象が Web ユーザ ユーザー・ インターフェースで明らかである場合、Web インターフェイスのスクリーン ショットは問題点を明らかにしてまた有用です。